

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200306		
法人名	社会福祉法人 最勝会		
事業所名	グループホームあそか		
所在地	山口県柳井市日積3213番地		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に囲まれ、花の手入れや野菜を育てています。家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしていけるよう、職員は和やかな笑顔、優しい言葉で、ひとり一人に寄り添い支援を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人の系列事業所、特別養護老人ホーム、養護老人ホームなどとの連携を図り、普段から感染防止や健康管理が行き届き、看護師、管理栄養士などの医療チームからアドバイスを受ける体制を整えている。コロナ禍で外出自粛の中、工夫点として、第一に、職員は、日頃から利用者とのコミュニケーションを密に取り、利用者支援について話し合いを重ねて、業務効率化、支援の充実を図っている。第二に、食事は、3食の手作り食事を始め、職員の提案から今年度始めた『お楽しみランチ』など毎月実施する事で食の充実を増やす取り組みをしている。第三に、外出は、感染状況に応じて、敷地内の散歩、花見ドライブ、家族の協力を得ての受診など外に出掛けるようにし、利用後も家族との関りを密に行い、利用者や家族との関りの継続支援に力を入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「和やかな笑顔」「優しい言葉」「あなたらしさ」を念頭に、利用者の立場に立って支援を行っている。	法人理念の方針から職員は、笑顔を絶やさない気持ちで接している。永年勤続表彰で、代表者の想いを聴く場面がある。年間事業計画を作成し、サービス方針、運営目標、重点方針、実行する当期方針を掲げ、年度末後に事業報告をして振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ三年間はコロナ禍で地域行事や法人の行事、ボランティアの来苑等が中止となり交流の機会がなかった。近所の方との挨拶の機会やふるさと祭りに作品出展を行った。	感染状況や気候が良ければ散歩をしている。法人として、認知症カフェ、サロンを毎月開催している。地域のイベント行事のふるさと祭りでは、利用者の貼り絵、今年度は富士山と梅の絵を出展している。日頃から近所の方も挨拶や声を掛けてくださり、顔なじみの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染の状況に応じて、法人内の地域包括支援センターが認知症カフェを開催している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、ミーティング時に評価の意義を職員に説明し、職員が各自自己評価を実施し管理者がまとめ、課題の改善に向け取り組んでいる。	管理者は自己評価の意義あるいは目的を職員に説明をしている。個人に合わせた記入とし、常勤職員は全項目、非常勤職員は表紙のアウトカム項目など実施している。自己評価に取り組むことで日々の業務を振り返る機会作りになっている。率直な意見についても管理者は前向きに受け止め、課題の改善に向けた取り組みをしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、活動状況、利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、研修報告を行い、意見交換を行っている。(文章での開催も含まれている)	2ヶ月毎に開催し、感染状況に応じて対面、書面会議と柔軟に対応している。運営状況やヒヤリハット、事故報告などしている。誤薬に対して委員のメンバーから提案があり、薬のダブルチェック、薬チェック表の作成をした経緯がある。メンバーからの意見をサービス向上に活かしている。	家族との関係継続の支援を深める目的で、家族不参加者の方には、適宜アンケートの実施や議事録を送付することが望まれます。新型コロナウイルス感染症が落ち着き通常の面会など再開した時は家族会を開催する場面作りなどを行い、貴重な意見が活かされるよう努めることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議に事業所の状況を伝えている。又メールで情報を得たり、オンラインの研修に参加し協力関係を築くよう努めている。	市担当者は運営推進会議に参加し事業所の状況を伝え、例えば、ヒヤリハットなどアドバイスを受けることもある。分からないことがあればその都度電話や直接窓口で相談し、そこで得た情報や報告事項があれば、事業所内で共有している。柳井市では初めてのグループホーム開設に伴い市担当者とは良好な関係づくりを築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束防止委員会に委員が参加し、ミーティング時に報告を回覧し理解を深め身体拘束をしないケアに努めている。利用者が外出したい意向がある時は、天候や心身の状態を把握した上で一緒に出かける対応を工夫している。	法人内の身体拘束廃止委員会を年6回開催している。部内研修として、年1回チェックリストを活用し、言葉の拘束、不適切なケアにならないように気をつけている。玄関前は車両など交通状況から安全面を含め鍵を掛けている。利用者が『外へ出掛けたい』などあれば、気候や本人の身体状況に応じて職員が一緒に出掛けている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の身体拘束防止委員会に委員が参加し、ミーティング時に報告を回覧し理解を深め虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、管理者、介護支援専門員が把握している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、書面等で管理者が家族に対し説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に説明している。受診時や電話の際に、利用者の様子を伝える等して、意見や要望が出やすい雰囲気作りに努めている。	新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、玄関での窓越し面会をしている。家族へは、日頃の暮らしぶりを毎月『あそかだより』、年2回『法人のひなたぼっこ』の広報誌に載せて、利用者が穏やかに過ごす姿を伝えている。要望については、連絡ノートで情報共有し、迅速に対応出来るように、出来る限りの要望に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のミーティング、日常業務の中や申し送りで職員の意見や要望を聞く機会を設けている。代表者は年2回人事考課の個人面談で聞いている。設備の老朽化に関する事や利用者のケアについてなど、意見や提案を運営に反映させている。	毎月のミーティングや日々の申し送りで職員の個々に感じている事を解消するように努めている。例えば、令和4年6月に勤務形態の変更をしている。その他にも業者への注文がしやすいように書式を改定したり、申し送りノートを活用し、日々の申し送りを簡素化するなど、業務の効率化を図った経緯がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、代表者と個人面談を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は事務所に掲示して情報を伝え、受講後は復命書を作成している。職員は法人内の各委員会に委員として出席し資料を回覧している。内部研修はミーティング時に短時間だが実施している。新人研修は施設長が法人全体の説明を行い研修日誌を施設長に提出している。資格取得については受講費の負担や勤務調整など支援している。	新人研修では施設長が法人全体の説明を行っている。法人内での各委員会や、外部研修として、市主催などの研修参加を促し、参加後は復命書を回覧し、月1回のミーティングで情報共有し質の向上に努めている。人事考課制度の導入により、年2回の理事長と施設長との個別面談を実施する中でアドバイスを受ける体制を整えている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と直接交流する機会はないが、電話等で情報交換を行うことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活の様子や生活歴等、ご家族から情報収集を行い、更に本人の話に耳を傾け、馴染みの関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等を十分にアセスメントし、必要な支援方法を共に考え、信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望や状態を十分にアセスメントし、経過観察を行い必要な支援方法を共に考え対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は共に助け合う関係であり、選択した意見・意思を表出できる関係をつくるべく取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に情報交換を行い、本人及び家族の意向を大切に、共に本人を支える一員であるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、家族と窓越しの面会を行っている他、年賀状や暑中見舞い、電話の取り次ぎ等を支援している。家族の協力を得て、かかりつけ医を受診したり、感染症緩和時はドライブで車中から景色を楽しむ等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	利用開始時の家族からの情報、生活歴や日頃の関わりから把握するように努めている。近所の方の面会もあり、年賀状や暑中見舞い、電話の取り次ぎなど支援をしている。ドライブの際に、それぞれの馴染みの深い地域、自宅付近を通ることもある。馴染みの人や場所との旧知の関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の、その日その時の状態を把握し、職員が潤滑油になって良好な関係を保てるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の状況により、同法人の他事業所との交流は難しくなり、契約が終了した方々との交流も難しくなった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の言葉や、言葉に表せない表情や行動等を観察し、利用者に寄り添うよう努めている。	本人の発言内容は個々の個人記録に丁寧に記録をしている。利用者の意思疎通が難しい方には、家族からの情報、生活歴、日頃の本人の表情、行動、態度などから把握し、本人本位で物事を考えている。記録物で夜間帯の睡眠状況、排泄状況が把握しやすいようにグラフや図で示し、誰が見ても分かりやすい書式を用いている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に生活歴や趣味、得意な事等をアセスメントし、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録、職員間の連携ノートを活用し把握に努めている。ミーティング時は良い気付きや新たな課題等について検討し現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、ご家族やご本人の要望を聞き、担当者によるモニタリングを行い、ミーティング時に話し合い介護計画を作成している。新入所の際は、在宅でサービスを利用されていた事業所からの情報収集も行っている。	本人が穏やかに生活できるように担当職員と計画作成者がカンファレンスを行い、利用者・家族の意向を踏まえた計画を作成している。計画が日頃から意識するようにケア記録に掲げて毎日実施しているか確認している。年2回のモニタリングを実施しているが、状況に応じて2～3カ月毎にこまめにモニタリングを実施している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別に行い、職員間の連携ノートを活用し、職員全員で情報共有できるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策で面会や外出の制限を継続しており、日用品は職員が主に購入支援をおこなっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味活動として、毛糸の交通安全マスコットを作り、交通安全週間に地域の方に手渡す計画を立てていたが、今年度も実施することができなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族は希望する医療機関をかかりつけ医とし、かかりつけ医や他科受診は家族や親族の協力を得ている。必要時には医師や薬剤師に電話や情報提供書で情報を伝え指示や助言を受けている。管理者が受診に同行することがある。夜間の緊急時は、管理者や家族に連絡し救急車対応を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。希望者は月2回訪問歯科の口腔ケアを受けている。	今までの病歴などから利用者、家族が希望するかかりつけ医としている。かかりつけ医の受診や他科の受診を含め家族対応をお願いしている。希望者には月2回の歯科衛生士が来訪し、口腔ケアを行っている。体調不良時は法人の看護師に相談できる体制を整えており、適切な医療を受けられるように対応をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は勤務しておらず、訪問看護師の来所もないが、利用者の体調不良時は法人看護師に相談する等し適切な受診に繋がるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	心身の状況や入院に至った経緯などを医療機関に報告し、連携に努めている。今年度は入院先の病院から認知症の症状が強く、入院継続が難しい事例があり退院予定日より早く退院し服薬治療を行った事例がある。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合に事業所ができる対応を家族に説明し、「緊急時対応の誓約書」を交わしている。重度化が考えられる場合は早い段階から家族、かかりつけ医で話し合い、入院や移設を含め方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	利用開始時に家族への説明を行い、『緊急時対応の誓約書』を交している。なるべく早い段階から家族、かかりつけ医で話し合いをしている。重度化した場合、その都度家族やかかりつけ医と方向性をよく話し合い、看取りの時期になれば、本人の状況に応じて併設の特別養護老人ホーム又は病院での対応としている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	対応した職員がヒヤリハット・事故報告書に状況、原因、分析、対策を記入して管理者を通して施設長に提出し、職員が回覧し共有している。法人内の事故防止委員会に委員が参加し事例報告等を行い事故防止に努めている。急変時の対応については、「緊急時対応フォロー」を掲示し備えている。	ヒヤリハット、事故報告など市担当者からアドバイスを受ける体制がある。急変時の対応として、リビング、キッチンに『緊急時対応フォロー』を掲示し、応急手当、初動行動が出来るようにしている。併設施設の特別養護老人ホーム及び養護老人ホームにAEDを設置し、緊急時には応援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所独自で火災、地震、水害を想定した通報・避難・消火訓練を実施している。本年3月4日、(当事業所からの火災)夜間想定合同避難訓練を、消防署や地元消防団と実施した。	令和4年3月に消防署、地区消防団、同敷地内の法人グループの特別養護老人ホーム及び養護老人ホーム合同で夜間火災想定訓練を実施した経緯がある。年1回の事業所独自で地震想定避難訓練を実施し、利用者はヘルメットを被り一緒に訓練をしている。併設の養護老人ホーム厨房で約5日分の備蓄食を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴時や排泄時には声の大きさや言葉かけのタイミングに配慮している。個人情報には施錠のできる所に保管して取り扱いに留意すると共に守秘義務についても遵守している。	部内研修の参加や参考書などの資料を回覧し、自己学習に努めている。居室は鍵が掛けられる設計で職員は居室内に入る時はノックをする、挨拶をする、ドアを閉めるなど当たり前の行動が出来るようにしている。管理者は職員が出来ている所を日頃から褒める事で職員のモチベーションが向上し、より良い効果が現れている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の仕方を工夫し、話しやすい関係をつくり、自己決定できるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のペースを尊重しながらも、適度な運動や静養、楽しみのある時間なども体感できるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や身体にあった洋服選びや、基礎化粧品等、ご家族と購入調整を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はもやしの根取り、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど一人ひとりの状態や力に応じて職員と一緒にいる。季節の行事食(おせち、恵方巻、年越しそば)特別メニュー(創立記念日、敬老会、忘年会)誕生日の手作りおやつ、お楽しみランチ等食べる事を楽しむ支援を行っている。	下準備、テーブル拭き、食器洗いなどは利用者と職員が一緒に行っている。季節毎の行事食、『そうめん流し、鍋焼きうどん、恵方巻』など提供している。今年度は職員の提案で『お楽しみランチ』など、食の充実を増やす取り組みをしている。法人の管理栄養士が献立を作成し、利用者個々の状況に応じて食事形態の工夫をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託給食会社の栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成し、食材を取りに行き事業所で手作りしている。利用者の状態に合わせて一口大、刻み、栄養補助食品などの食事形態に配慮し、自助具のスプーンや食器等も準備している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者は月2回、訪問歯科が来所し口腔ケアを受けている。毎食後、声をかけ必要な口腔ケアや洗浄剤に浸ける等の支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、体調管理に役立てたり、一人ひとりに応じた早めの声かけや誘導で排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレは2カ所あり、トイレに座る事を基本としたケアに努めている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い、必要時はポータブルトイレの設置、個々の状態に応じて介助で対応している。紙おむつなどの選定も個々の状態に合わせて本人が快適に過ごせるように検証しながら取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排便状況を把握し、心身の状態把握に役立てている。既往歴に応じて便秘解消の薬を服用されている利用者もあるが、水溶性食物繊維(サンファイバー)の飲用や水分摂取の調整、運動へお誘いし便秘の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回程度、14時～16時頃の間で入浴を楽しめるよう支援している。個々の体調や身体状況に応じてシャワー浴、部分浴、清拭等に対応している。入浴を嫌がる利用者には、足浴や拭き取りシャンプーで気持ち良さを実感してもらったり、タイミングをずらし他の職員が声をかえたりする等工夫している。	基本週2～3回の14時～16時頃の間で入浴をしている。ヒートショック予防として、暖房機を設置している。季節に応じて柚子湯、入浴剤を適宜活用している。入浴が難しい方は足浴やふき取りシャンプーで対応している。本人が好むシャンプーや石鹸などは自由に持ち込み、入浴後は保湿剤の塗布など個別対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、日中の休息や夜間の安眠のバランスが取れるよう配慮し支援している。日々の入眠状況の把握に努め、不安定な場合は家族やかかりつけ医に相談し、薬の処方調整等の支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で効能、用法、副作用を確認し理解に努めている。与薬の間違いがなくチェック表で確認している。心身の症状に変化があった時は、随時家族に報告し情報共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビやYouTube(懐メロ、童謡、近隣の市町の映像)の視聴、体操、脳トレプリント(塗り絵、計算、間違い探し)季節の作品作りに取り組んでいる。季節の行事(節分、雛祭り、母の日、父の日、敬老会、忘年会)や誕生会、ドライブで車外を見学、外気浴や散歩、花壇や畑の手入れ等気分転換の支援を行っている。洗濯物干しや畳む、床掃除、食器洗い等個々の力を活かし役割支援を行っている。	職員は日頃の関りから本人の得意なことを見極めている。個々の役割づくりとして、洗濯物干しや畳む、床掃除、食器洗いなど一人ひとりが活躍出来る場面づくりの支援をしている。利用者と職員が共同で手作りカレンダーや季節の飾りつけの作品作りをしている。テレビやYouTube動画を活用し、レクリエーションの充実を図っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や日光浴、花壇や畑の作業、季節の花見ドライブ、家族の協力を得ての受診等戸外にでかけられるように支援している。	感染状況に応じて気候が良ければ日常的に周辺の散歩やホーム目の前で椅子を出して日向ぼっこを楽しんでいる。花見、バラの花を見に行く、利用者の馴染みの深い地域、自宅周辺近くを通ったり、など外出日を設け季節毎のドライブに出掛けている。外出自粛の時期は、ホーム内で出来る、レクリエーションの充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から小遣いを預かり、飲料品、ティッシュペーパー等の日用品、散髪代、紙パンツやパッド等の購入支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者は、定期的に家族から電話がかかり会話されていた。希望に応じて、電話時に家族とスピーカー機能を使い会話されている。暑中見舞い状や年賀状作りを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外は長椅子を置き、花壇を楽しめるようにし、玄関内には椅子を置き靴の着脱をしやすくしている。食堂やキッチン吹き抜けで明るく、各食卓からテレビが視聴できる。壁には手作りカレンダーや季節の作品を飾り、季節感を感じることができる。加湿器を設置し、室温や湿度、換気にも配慮している。	天井が高く天窓を活用することで明るく広々とした空間である。リビングの大きな窓から見える山々の景色に四季を感じる事が出来るよう配慮している。壁紙などの色彩に気を配り、適所にソファを設置し、明るく暖かい雰囲気作りをしている。感染予防対策や利用者の状態に応じて、テーブルの位置など、レイアウトを工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ近くにソファを置き、廊下の途中に椅子を置くなどして居場所作りに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、羽毛布団、衣装ケース、置時計、化粧品、ハンドマッサージ機、ハーモニカ、縫いぐるみ、アルバム等自宅で使用していた馴染みのものを持ち込まれる利用者がある。各居室には家族の写真や誕生日のカード等を飾っている。	各居室によって色々な壁紙を使用している。使い慣れた物を自由に持ち込み、例えば、家族の写真、携帯電話、ハンドマッサージ機、ハーモニカなどを持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。日中や夜間の身体状況を把握し、本人の生活スタイルに応じて家具やベッドの位置などレイアウトを変更している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状況に添ったベッドを準備し、PTイレを活用している利用者がある。トイレは分かりやすいイラストを貼っている。廊下は手すりや常夜灯を設置している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームあそか

作成日

令和 5年4月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	推進会議の議事録をご家族にお渡ししていませんでした。	ご家族と関係継続の支援を更に深めていくよう努める。	推進会議の議事録はその都度送付する。	2ヶ月
2	5	新型コロナウイルス感染症の影響で、約3年間ご家族との交流場数が少なくなっていた。	家族会等を開催し、意見交換を行うことで信頼関係の構築に努める。	新型コロナウイルス感染症が落ち着き、通常の面会など再開した時は、家族会等を開催する場面作りをおこなう。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。